

科目名

法学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

社会生活を営む上で数多くの法律(正式な法律名を知らないものがほとんどである)と関わり合いを持ってざるを得ない。たとえば、売買、土地・建物の賃貸、交通事故、家庭における親子関係、相続や新聞の三面記事に載る犯罪、また会社で働く場合の会社との関係などである。これらの法律関係を基礎から考えたい。

到達目標

売買、賃貸借等契約内容の理解、交通事故による損害賠償責任の意味、婚姻・離婚・相続・親子関係についての民法の定め等、最低限度の知識を修得する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によんでおくこと。
ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	法の意義 法と道徳の違い
2	法の適用 裁判の意味と構造
3	家庭と法 親族関係について(1)
4	家族と法 親族関係について(2)
5	家族と法 相続関係について
6	犯罪と法 犯罪とは何か?
7	犯罪と法 罪刑法定主義
8	犯罪と法 刑罰の意味、内容
9	損害と法 不法行為
10	損害と法 損害賠償義務
11	企業と法 会社の種類
12	企業と法 会社の種類
13	企業と法 株式会社の内容
14	職場と法 労働基準法の意義
15	職場と法 労働基準法の原則

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート等提出(15%)、学習態度等(15%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之著 有信堂高文社	「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣
関連のある授業科目	資格等
法学Ⅱ	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

法学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

前期科目の「法学Ⅰ」は、法学全般に対する基本的な理解を目標とするが、「法学Ⅱ」は法学Ⅰの理解を前提として、法律と政治の実践的な問題について説明したい。

到達目標

選挙に関する憲法および公職選挙法の規定、社会権のひとつとして憲法の保障する労働基本権や労働法の原則、さらに裁判に対する原則などを理解する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によんでおくこと。ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	後期
1	政治① 民主主義について
2	政治② 政治的イデオロギーの機能
3	政治③ 選挙について
4	政治④ 現代国家の政治的特質
5	政治⑤ ナショナリズムについて
6	法律Ⅰ① 憲法の三大原則について
7	法律Ⅰ② 国会について
8	法律Ⅰ③ 裁判所について
9	法律Ⅰ④ 地方自治について
10	法律Ⅱ① 民法総則
11	法律Ⅱ② 物権法
12	法律Ⅱ③ 債権法
13	法律Ⅲ① 会社法
14	法律Ⅲ② 有価証券法
15	法律Ⅳ 労働法の現代的課題

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之 有信堂高文社	「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣
関連のある授業科目	資格等
法学 I	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

地域福祉論

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

講義、グループディスカッションを通じ、地域課題の事例(模擬事例)を基に、地域福祉の基本的な考え方と課題把握の方法について概説する。
また、地域住民の生活ニーズ充足にむけての社会資源の活用・調整・開発のための方法について学び実践力を養う。
(授業の目的・ねらい)
1. 地域生活を支えるさまざまな団体、組織を知り、自らが社会福祉の担い手として地域で活動できる。
2. 地域包括ケア(システム)の構築に向けた取り組みについて理解することができる。

到達目標

1. 地域福祉の基本的考え方について理解し説明できる。
2. 地域住民の自立生活実現にむけての各組織、専門職の役割について理解し説明できる。
3. 地域問題解決における援助方法について理解し説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所の配布資料等を読んでおくこと。
事後学習として、配布資料やノート等に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	後期
1	地域福祉の歴史とその基本的考え方(地域福祉の理論)
2	地域福祉の基本的考え方(地域分析の枠組み)
3	地域福祉に関連するわが国の諸制度①
4	地域福祉に関連するわが国の諸制度②
5	地域福祉に関連する組織(社会福祉法人)
6	地域福祉に関連する組織(NPO)
7	地域福祉に関連する組織(社会福祉協議会)
8	地域福祉に関連する組織(共同募金会)
9	地域福祉に関連する組織(民生委員・児童委員)
10	コミュニティソーシャルワークの実際①
11	コミュニティソーシャルワークの実際②
12	社会資源活用、調整、開発の進め方
13	事例検討①
14	事例検討②
15	まとめ

成績評価基準及び方法

授業態度(10点)、確認テスト(10点)、レポート課題(10点)、筆記試験(70点)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『(新版)よくわかる地域福祉』ミネルバ書房	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』学文社
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、社会の理解Ⅰ、Ⅱ	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

心理学

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／介護必修》

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

私たちは、高齢者への道を歩み続けている。介護福祉に関わろうとする若者たちの今の心は、日々どのように揺れ動いているのだろうか。本授業では、個人の心理や言動を社会との関係において解明し、心地よく生きる道筋を探究する。家族心理学、教育心理学、社会心理学などから幅広く学ぶ中で、自他の理解を深め生き抜く知恵を学び合う。また、「人はなぜいじめるのか」の緊急かつ大命題の理解と解決への方策に迫る。

到達目標

- ・心についての一般的知識を得て整理することができる。
- ・ペアから始まり、集団での交流活動で積極的に参加することができる。
- ・心に関わる各種情報に関心を持ち、学習課題に活用することができる。
- ・自己の特長を最大に発揮し、意見発表や討論協議ができる。

事前事後学習

心の問題について日常的に関心を持ち、ノートに切り抜きやメモをしておく。緊急に解決すべき課題が生じた場合の解決策として、身近な人、物、事との絆づくりを進める。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支援することができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
		○			

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	オリエンテーション。人は見かけで決まるか
2	本当の私とはⅠ 自尊感情
3	本当の私とはⅡ 感情と健康
4	相手と親しくするにはⅠ コミュニケーション
5	相手と親しくするにはⅡ 依頼と承諾
6	もて男、もて女であるにはⅠ 恋愛の法則
7	もて男、もて女であるにはⅡ 恋愛の進展、失恋
8	みんなの力で達成するにはⅠ 集団の力
9	みんなの力で達成するにはⅡ 組織の力
10	見えない情報圧力とはⅠ 消費行動
11	見えない情報圧力とはⅡ 群衆心理
12	ストレス社会をしなやかにⅠ ケータイ、ネット依存
13	ストレス社会をしなやかにⅡ いじめ
14	小論文作成
15	小論文発表会・意見交流

成績評価基準及び方法

学習態度(45%) レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時、資料を配布する。	「本当にわかる心理学」植木理恵著 日本実業出版社 「よくわかる社会心理学」小口孝司著 ナツメ社
関連のある授業科目	資格等
	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

社会福祉概論

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を習得する。
福祉理念の歴史の変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活支援の理解を通しその生活を支える必要性を理解し身につける。
(授業の目的・ねらい)
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎身につける。

到達目標

1. 人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解し専門職としての基盤となる倫理観を身につける。
2. 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解し説明することができる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	○
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	後期	
1	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体
2		人権思想の潮流とその具現化
3		人権や尊厳に関する日本の諸規定
4		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①
5		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②
6		生命倫理と介護福祉
7		人権尊重と権利擁護
8		家庭内暴力に関する法律と介護福祉
9	介護における尊厳の保持と自立の概念	自立概念の多様性
10		自立と自己選択・決定と自律
11		自立支援がめざすもの
12		自立への意欲と動機づけ
13		介護を必要とする人々の自立と自立支援
14		尊厳の保持と自立、自立支援の関係性
15		尊厳を守る介護

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第3版)』 中央法規出版 『福祉ってなんだ』古川孝順 岩波ジュニア新書	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

人間関係とコミュニケーション I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

自己理解、他者理解を基に人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて基礎的な知識を身につけその実践力を養う。
(授業の目的、ねらい)
介護の実践のために必要な人間の理解や対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。

到達目標

1. 人間と人間関係について理解し説明できる。
2. 対人関係におけるコミュニケーションの意義について理解し説明できる。
3. 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義について理解し説明できる。
4. 組織におけるコミュニケーションの意義について理解し説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	○
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	人間と人間関係① 人間らしさの始まり
2	人間と人間関係② 自分と他者の理解
3	人間と人間関係③ 発達心理学から見た人間関係
4	人間と人間関係④ 社会心理学から見た人間関係
5	人間と人間関係⑤ 社会関係とストレス
6	対人関係におけるコミュニケーション① コミュニケーションの概念
7	対人関係におけるコミュニケーション② コミュニケーションの基本構造
8	対人関係におけるコミュニケーション③ コミュニケーションの手段
9	対人援助関係におけるコミュニケーション① 人間関係とコミュニケーション
10	対人援助関係におけるコミュニケーション② 対人援助における基本的態度
11	対人援助関係におけるコミュニケーション③ 援助的人間関係の形成とパイスティックの7つの原則
12	組織におけるコミュニケーション① 組織の条件とコミュニケーションの特徴
13	組織におけるコミュニケーション② 組織における情報の流れ
14	組織におけるコミュニケーション③ 組織において求められるコミュニケーション
15	組織におけるコミュニケーション④ 集団討議(KJ法・ブレインストーミング)

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第2版)』中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

人間関係とコミュニケーションⅡ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

介護の質を高めるために必要なチームマネジメントを理解するために対人サービス(ヒューマンサービス)としての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理方法の基礎について概説する。
(授業の目的、ねらい)
介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための実践的な能力を習得する。

到達目標

1. 介護におけるチームマネジメントの意義について理解し説明できる。
2. 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材育成、活用等について理解し説明できる。
3. リーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基礎を理解し説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	○
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	介護実践におけるチームマネジメント① ヒューマンサービスとしての介護サービス
2	介護実践におけるチームマネジメント② 介護現場で求められるチームマネジメント
3	介護実践におけるチームマネジメント③ 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み
4	ケアを展開するためのチームマネジメント① ケアを展開するために必要なチームとその取り組み
5	ケアを展開するためのチームマネジメント② チームでケアを展開するためのマネジメント
6	ケアを展開するためのチームマネジメント③ チームの力を最大化するためのマネジメント
7	ケアを展開するためのチームマネジメント④ リーダーシップ・フォロワーシップについて考える
8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント① 介護福祉職のキャリアと求められる実践力
9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント② 介護福祉職としてのキャリアデザイン
10	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③ 介護福祉職のキャリア支援・開発
11	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④ 自己研鑽に必要な姿勢
12	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント⑤ スーパービジョンの機能の理解
13	組織の目標達成のためのチームマネジメント① 介護サービスを支える組織の構造
14	組織の目標達成のためのチームマネジメント② 介護サービスを支える組織の機能と役割
15	組織の目標達成のためのチームマネジメント③ 介護サービスを支える組織の管理

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第2版)』中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

社会の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係を体系的にとらえることができるように関連諸制度を含めて概説する。
(授業の目的、ねらい)
1. 個や集団、社会単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的にとらえることができるようになる。
2. 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を理解し実践に結び付けることができるようになる。

到達目標

1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人・家族・近隣・地域・社会の仕組みについて理解し説明できる。
2. 人間の生活と社会の関わりや地域における生活構造について理解し自助・互助・共助・公助について説明することができる。
3. 地域共生社会について、その求められる社会的背景や理念について説明できる。
4. 地域包括ケアについて、その求められる社会的背景や理念について説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	
1	社会と生活の仕組み	生活を幅広くとらえる(「人間」をとらえる複合的視点)
2		生活の基本機能(生活の多様性の理解)
3		ライフスタイルの変化
4		家族の機能と役割
5		社会・組織の機能と役割
6		地域・地域社会(自助・互助・共助・公助)
7		地域社会における生活支援(地域社会の変化)
8		地域の集団、組織による生活支援
9	地域共生社会の実現 に向けた制度や施策	地域福祉の発展① 地域福祉の理念と歴史的発展
10		地域福祉の発展② 地域福祉の充実
11		地域共生社会① 地域共生社会と社会的背景
12		地域共生社会② 地域共生社会の理念
13		地域共生社会③ 実現に向けた取り組み
14		地域包括ケア① 地域包括ケアの理念
15		地域包括ケア② 地域包括ケアシステム

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第2版)』中央法規出版 『入門高齢者福祉(第3版)』ミネルバ書房	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』学文社
関連のある授業科目	資格等
社会の理解Ⅱ、介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

社会の理解 II

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要	<p>社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する制度について概観する。 (授業の目的、ねらい)</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の社会保障制度の基本的な考え方、仕組みについて理解し説明することができるようになる。 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について介護実践に必要な観点から基礎的な知識を理解し実践に結び付けることができるようになる。
--------------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 社会保障制度の基本的な考え方のしくみ、社会保障の現状と課題を理解し説明できる。 高齢者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者保健福祉の現状と課題を理解し説明することができる。 障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉の現状と課題を理解し説明することができる。 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解し説明することができる。
-------------	---

事前事後学習	<p>事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。 事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。</p>
---------------	---

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	
1	社会保障制度	社会保障の基本的な考え方と制度の発達
2		社会保障制度の仕組みと持続可能性
3	高齢者福祉と介護保険制度	高齢者保健福祉の動向と今日的課題
4		高齢者保健福祉に関する法体系
5		介護保険制度① 制度創設の背景と基本的理解
6		介護保険制度② 組織、団体、介護支援専門員等の役割
7		介護保険制度③ 介護保険制度の動向
8	障害者福祉と障害者保健福祉制度	障害者保健福祉の動向と関連する法体系
9		障害者総合支援法① 自立支援給付と地域生活支援事業
10		障害者総合支援法② 障害支援区分と利用続き
11		障害者総合支援法③ 相談支援事業と相談支援専門員
12		介護保険制度と障害者総合支援制度
13	介護実践に関する諸制度	個人の権利を守る制度・施策
14		保健医療に関する制度・施策
15		貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策と、域生活を支援する制・施策

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第2版)』 中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』 学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

介護基本 I

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期／介護必修》

担当者

山城典子

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護の基本となる理念について概説する。
 ・介護福祉士の役割と機能について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

①わたしたちの生活を理解できる。
 ②介護を必要とする人の理解ができる。
 ③介護福祉の基本となる理念を理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本 I」の当該箇所を読んでおくこと。
 ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回		回			
1	介護を必要とする人の理解	1 6	介護を必要とする人の理解	家族介護者の理解と支援	
2		1 7	介護福祉の基本となる理念	社会の変化と介護福祉の歴史～家族機能の変化	
3		1 8		社会の変化と介護福祉の歴史～地域社会の変化	
4		1 9		社会の変化と介護福祉の歴史～介護需要の増加と発展	
5		2 0		介護の社会化～介護問題の複雑化・多様化	
6		2 1		介護の社会化～介護従事者の多様化・地域社会を支える介護	
7		2 2		介護福祉の基本理念 ～尊厳を支える介護	介護福祉の基本理念～自立を支える介護
8		2 3			
9		2 4			
10		2 5			
11		2 6			
12		2 7			
13		2 8			
14		2 9			
15		3 0			

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第3巻 介護基本Ⅰ」中央法規出版 「最新介護福祉士養成講座 第4巻 介護基本Ⅱ」中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護過程、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護基本 I

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期／介護必修》

担当者

山城典子

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護の基本となる理念について概説する。
 ・介護福祉士の役割と機能について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

①わたしたちの生活を理解できる。
 ②介護を必要とする人の理解ができる。
 ③介護福祉の基本となる理念を理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本 I」の当該箇所を読んでおくこと。
 ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回		回								
1	介護を必要とする人の理解	1 6	介護を必要とする人の理解	家族介護者の理解と支援						
2		私たちの生活の理解	1 7	介護福祉の基本となる理念	社会の変化と介護福祉の歴史～家族機能の変化					
3		介護福祉を必要とする人たちの暮らし	1 8		社会の変化と介護福祉の歴史～地域社会の変化					
4			1 9		社会の変化と介護福祉の歴史～介護需要の増加と発展					
5		その人らしさとは	2 0		介護福祉の基本となる理念	介護の社会化～介護問題の複雑化・多様化				
6			2 1			介護の社会化～介護従事者の多様化・地域社会を支える介護				
7		高齢者の生活の個性と多様性の理解	2 2			介護福祉の基本となる理念	介護福祉の基本理念 ～尊厳を支える介護			
8			2 3				介護福祉の基本理念～自立を支える介護			
9		障害者の生活の個性と多様性の理解	2 4				介護福祉の基本となる理念			
1 0			2 5							
1 1		生活ニーズ	2 6					介護福祉の基本となる理念		
1 2			2 7							
1 3		家族・地域との関わり	2 8						介護福祉の基本となる理念	
1 4			2 9							
1 5		家族介護者の理解と支援	3 0							

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第3巻 介護基本Ⅰ」中央法規出版 「最新介護福祉士養成講座 第4巻 介護基本Ⅱ」中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護過程、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護基本Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護を必要とする人の理解(人間の多様性と複雑性)と協働する多職種の機能と役割について概説する。
 ・介護における安全の確保とリスクマネジメントから介護従事者の安全について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

①介護福祉士の倫理に基づいて、「社会福祉士および介護福祉士法」の規定のもとに理解し、実践の場で倫理がどのように活かせるのかについて理解できる。また、多職種連携・協働をIPWの実際を通して学び、介護福祉職自らの専門性について理解できる。②生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全・感染対策の重要性について学び、介護福祉職自らの健康管理と意義と目的を理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
 授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた介護	介護福祉における自立支援の意義
2	介護を必要とする人の理解～人間の多様性・複雑性の理解	生活史、価値観、生活観、生活習慣、就労、雇用、生活様式等の多様性
3		
4		
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント	観察、正確な技術、予測・分析
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント～事故防止、安全対策	セーフティマネジメント、緊急連絡システム、防火・防災対策、利用者の生活の安全(防犯、消費者被害)
7		
8		
9		
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント～感染対策	感染予防の意義と介護、感染管理、衛生管理
11		
12		
13	介護従事者の安全と介護従事者の倫理～介護従事者の心身の健康管理	介護従事者を守る団体と法制度
14		
15		
		介護従事者を守る環境の整備
		介護従事者の心身の健康管理

成績評価基準及び方法

学習態度・レポート(60%)、定期試験(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新 介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ」(第2版) 「最新 介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」(第2版) 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

コミュニケーション技術 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松本末信(11)・小野尚寿(4)

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護を必要とする方とのコミュニケーションの基本について概説する。
・介護における家族とのコミュニケーション技法について概説する。
・障害の特性に応じたコミュニケーション技法について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ①介護を必要とする方とのコミュニケーションの基本について説明できる。
- ②適切なコミュニケーションの実践ができる。
- ③様々なコミュニケーション障害のある利用者を理解できる。
- ④レクリエーションを通しコミュニケーションの工夫ができる。

事前事後学習

- ・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	○
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護を必要とする人とのコミュニケーション(松本)	介護におけるコミュニケーションの基本
2		コミュニケーションの基本技術①
3		コミュニケーションの基本技術②
4		目的別や集団におけるコミュニケーション技術
5	介護における家族とのコミュニケーション(松本)	家族との関係づくり
6		家族への助言・指導・調整
7		家族関係と介護ストレスへの対応
8	施設レクリエーション(松本)	レクリエーションの実際とコミュニケーションのあり方
9		
10	在宅レクリエーション(松本)	
11		
12		
13	障害の特性に応じたコミュニケーション～聴覚障害(小野)	聴覚障害がある方とのコミュニケーション
14		手話をやってみよう
15		

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術」 中央法規出版	「七訂 介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、認知症の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

コミュニケーション技術Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

吉見功介(11)・中村久美(4)

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・障害の特性に応じたコミュニケーション技法について概説・習得する。
・介護におけるチームのコミュニケーションについて概説・習得する。
(授業の目的、ねらい)
・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。

到達目標

①障害の特性に応じたコミュニケーションを学び、様々な障害のある利用者を理解することができる。
②介護におけるチームのコミュニケーションについて理解することができる。
③記録の種類と管理について理解すると共に、会議の重要性を理解することができる。
④プロセスレコードについて学び、自己覚知と他者理解によって関係が深まっていく過程を理解することができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	○
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	障害の特性に応じたコミュニケーション～視覚障がい～(中村)	視覚障害がある方とのコミュニケーション
2		点字をやってみよう
3		
4		
5	介護におけるチームのコミュニケーション～記録による情報の共有化について～(松本)	チームコミュニケーションとは、報告、連絡、相談の技術
6		事例検討
7		
8		会議・議事進行・説明の技術
9		
10		
11	介護におけるチームのコミュニケーション(松本)	文書作成
12		
13		プロセスレコード
14		
15		

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成校座 第5巻 コミュニケーション技術」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
生活支援技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

橋本 晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・生活支援について概説する。
 ・自立に向けた身じたくの介護について概説する。
 ・自立に向けた移動の介護について概説する。
 ・自立に向けた排泄の介護について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解できる。
 ②介護現場で使用される福祉用具や、介護予防について理解できる。
 ③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解できる。
 ④安心で心地よい「生活の場」とは何かを理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
 ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回		
1	生活支援の理解	生活支援の意義・目的
2		生活支援と介護過程
3	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた身じたくの介護	ひげ・爪の手入れ
4		点眼・化粧
5		口腔ケアを理解する
6		
7	自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基本的理解	歩行介助を理解する
8		車いす介助を理解する
9		移乗の介護を理解する
10	生活支援における介護	安楽な体位の保持を理解する
11		体位変換を理解する
12	自立に向けた排泄の介護～排泄の意義・目的	排泄の介護(尿器・差し込み便器)
13		排泄の介護(トイレ・ポータブルトイレ)
14	課題別の技術確認	技術の確認
15		

成績評価基準及び方法

レポート(50%)、学習態度(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第6巻・第7巻 生活支援技術 I・II」(第2版)中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本、コミュニケーション技術など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅲ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／介護必修》

担当者

竹永 鴻

実務経験

授業の概要

・生活支援について概説する。
 ・自立に向けた居住環境の整備について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、
 根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①住宅の改修を課題に平面計画の設計及び作図
 ②居住環境の改修設計に関する学習レポートの提出
 ③高齢者及び障害者のための住宅の基本的な計画のレポート提出

事前事後学習

①人が安心して快適に暮らすために必要な環境整備を習得する。
 ②他の領域との関連性を理解する。
 ③住宅や施設での生活環境など、その特性を理解する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			
試験実施の有無	実施する	実施しない			
		○			

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた居住環境の整備	
2		住まいの役割と機能
3		生活空間
4		快適な室内環境
5		安全に暮らすための生活環境
6		高齢者・障害者の住まい
7		居住環境の整備における多職種との連携
8		施設入所中のA氏が自宅に帰るには？
9		
10		
11		中古住宅の改修を課題に平面図を作成する
12		
13		住まいの場における工夫・留意点
14		
15		集団生活の場における工夫・留意点

成績評価基準及び方法

レポート(30%)、課題等提出物(50%)、学習態度(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版	1.長寿社会対応住宅設計(戸建住宅編) 2.高齢化住宅リフォームマニュアル(熊本県監修)
関連のある授業科目	資格等
	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術VI

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期／介護必修》

担当者

田脇 祥子

実務経験

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた食事の介護について概説する。
・自立に向けた家事の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①高齢者や障がい者の家庭生活の基本知識を学ぶ。
②食生活の知識とその援助方法を学習する。
③高齢者や障がい者の支援に応じた食生活が理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回		
1	生活支援と自立に向けた食事の介護～自立に向けた食生活の介護(稲田)	家事の意義と目的
2		
3		家事に関するアセスメント
4		
5		
6		家事の介助の技法
7		
8		
9		高齢者・障害者の食生活
10		
11	生活支援と自立に向けた家事の介護～自立に向けた衣生活の介護(田之上)	衣類の役割と機能
12		
13		衣類の素材・裁縫
14		
15		高齢者・障害者の被服

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポート又は定期試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術 I」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、介護基本、障がい理解など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅶ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

山口亮治

実務経験

病院に勤務

授業の概要

生活支援について概説する。
 自立支援に向けた居住環境の整備について概説する。
 自立に向けた身支度の介護について概説する。
 自立に向けた移動の介護について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①生活支援の理解ができる。
 ②介護を必要とする方々の様々な状況・状態に応じた生活支援が理解できる。
 ③利用者の状況・状態に応じた生活支援技術が展開できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
 授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	生活支援の理解～利用者の状態・状況に応じた支援技術とは
2	
3	肢体不自由に応じた介護・介護現場におけるリハ
4	
5	
6	自立に向けた視覚障害に応じた介護・居室環境の整備
7	
8	
9	聴覚・言語障害に応じた介護・起居動作とその介護
10	
11	
12	重複障害に応じた介護・移乗の介護
13	
14	自立に向けた移動の介護
15	

成績評価基準及び方法

テスト(100%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 「リハビリテーションからみた介護技術」中央法規出版	「介護福祉用具辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
からだのしくみ、介護基本など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅷ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／選択必修》

担当者

山口亮治

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・生活支援について概説する。
 ・障害に応じた自立に向けた食事の介護について概説する。
 ・障害に応じた自立に向けた排泄の介護について概説する。
 ・障害に応じた自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説する。
 ・障害に応じた機能訓練、レクリエーションの介護について概説する。
 ・障害に応じた在宅復帰支援について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①介護を必要とする方々の様々な状況・状態に応じた生活支援が理解できる。
 ②利用者の状況・状態に応じた生活支援技術が展開できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
 授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	
2	心臓機能障害に応じた介護(自立に向けた食事の介護)
3	
4	
5	呼吸器機能障害に応じた介護(自立に向けた排泄、入浴・清潔保持の介護)
6	
7	
8	腎臓機能障害に応じた介護(機能訓練のあり方)
9	
10	膀胱直腸機能障害に応じた介護(レクリエーションの援助)
11	
12	小腸機能障害に応じた介護(在宅復帰支援)
13	
14	免疫機能障害に応じた介護(在宅復帰支援)
15	

成績評価基準及び方法

テスト(100%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 「リハビリテーションからみた介護技術」中央法規出版	
関連のある授業科目	資格等
からだのしくみ、介護基本など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅹ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・自立に向けた身じたくの介護を習得する。
・自立に向けた移動の介護を習得する。
・自立に向けた排泄の介護を習得する。
・自立に向けた休息・睡眠の介護を習得する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解することができる。
- ②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
- ③利用者の状況に応じた介護技術が展開することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、演習の課題をできるように復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた身じたくの介護・自立に向けた移動の介護	知的障がい者と生活支援
2		介護技術の展開
3		精神障がい者と生活支援
4		介護技術の展開
5		高次脳機能障害と生活支援
6		介護技術の展開
7		発達障がい者の生活支援
8		介護技術の展開
9		重度心身障がい者の生活支援
10		介護技術の展開
11	自立に向けた排泄の介護	障害に応じた排泄の介護
12		介護技術の展開
13	自立に向けた休息・睡眠の介護	障害に応じた休息・睡眠の介護
14		介護技術の展開
15	まとめ	

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、効果測定(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版(第2版)	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「プロが教える本当に役立つ介護術」ナツメ社
関連のある授業科目	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅹ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・人生の最終段階における介護について概説する。
 ・福祉用具の意義と活用について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解する。
- ②利用者の状況に応じた介護技術が展開できる。
- ③人生の最終段階における介護が理解できる。
- ④福祉用具の意義と活用について理解できる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
 授業後にはノートおよび資料の整理を行い、復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回		前期
1	人生の最終段階における介護	人生の最終段階とは
2		人生の最終段階にある人の介護の視点
3		
4		人生の最終段階を支えるための基本となる知識と技術
5		
6		家族・介護職が「死」を受けとめる過程
7		
8	福祉用具の意義と活用	福祉用具の意義と目的
9		
10		自立に向けた福祉用具活用の視点
11		
12		適切な福祉用具の選択の知識と留意点
13		
14		今後の福祉機器とICTの広がり
15		

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(40%)、定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版(第2版)	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 ・「幸せな旅立ちを約束します 看取り士」 コスモス21
関連のある授業科目	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松本末信

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の意義と基礎について概説する。
・介護過程の展開について概説する。
・事例を活用しながらアセスメントについて概説する。
(授業の目的、ねらい)
・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

①介護過程の意義と基礎について理解することができる。
②生活支援の考え方と介護過程の必要性が理解することができる。
③ICFの考え方について理解することができる。
④介護過程の展開のプロセスについて事例をもとに理解できる。
⑤介護を提供するためのアセスメントの必要性を理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護過程の意義と基礎的理解	介護過程の意義・目的
2		介護過程とICF
3		
4		生活支援における介護過程の意義
5		
6		介護過程の展開を支える考え方
7		
8		
9		
10		情報の分析、ニーズの明確化・課題の抽出
11	介護過程の展開の理解～事例検討	アセスメント事例①
12		アセスメント事例②
13		アセスメント事例③
14		事例を基にアセスメント表を作成する
15		

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」 中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

松本末信

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の展開について概説する。
・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

①介護過程の意義と基礎について理解できる。
②介護過程の展開について理解できる。
③介護実習Ⅰaにおける介護過程の実践の振り返りができる。
④介護実習Ⅰbにおける介護過程の実践の取り組みができる。
⑤アセスメント・計画立案の方法を理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」を読んでおくこと。
・授業時に使用した配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護過程の意義と基礎的理解	アセスメント(意図的な情報収集、分析・ニーズの明確化・課題の抽出)
2		
3		介護計画の立案と実施
4		
5		
6	介護過程の展開の理解～アセスメント表の作成	アセスメント表作成の実際
7		
8		
9		
10	介護過程の展開の理解～計画立案	アセスメント表を参考に計画立案をする
11		
12		
13		
14		
15	介護過程の展開の理解～事例研究	実習における実践報告 事例研究

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」中央法規出版、実習のしおり	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護実習、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程Ⅲ

《2単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

松本末信

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の意義と基礎について理解できる。
・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

- ①介護過程の実践を理解できる。
- ②アセスメントや計画立案の実際が理解できる。
- ③介護実習Ⅰbの介護過程の実践の振り返りができる。
- ④介護実習Ⅰcの介護過程の実践の取り組みと振り返りができる。
- ⑤介護実習Ⅱの介護過程の実践の取り組みができる。

事前事後学習

- ・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		回	
1	介護過程の意義と基礎的理解	16	介護過程の展開の理解～事例
2		17	
3		18	
4		19	
5		20	
6		21	
7		22	
8		23	
9		24	
10		25	
11	介護過程の展開の理解～実践報告と事例研究①	26	介護過程の展開の理解～実践報告と事例研究②
12		27	
13		28	
14		29	
15	介護過程の展開の理解～事例	30	まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度および提出物(20%)、レポート(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」中央法規出版	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版 ・「ICFをとり入れた介護過程の展開」建帛社
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

松本末信

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の実践的展開について概説する。
・介護過程とチームアプローチについて概説する。
(授業の目的、ねらい)
・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

①様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解することができる。
②介護実習Ⅱでの介護過程の実践を振り返ることができる。
③チームアプローチにおける介護福祉士の役割について理解することができる。

事前事後学習

事前にテキスト「介護過程」の該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、演習の課題をできるように復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護過程の展開の理解	受け持ち担当者を見つめ直し、アセスメント、計画立案、実施・評価・修正の一連の方法を習得する
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8	介護過程とチームアプローチ	介護過程と介護サービス計画(ケアプラン)、訪問介護計画等の関係
9		
10		多職種連携における介護過程の意義
11		
12		ケースカンファレンスの展開と進行の方法(ロールプレイ)
13		
14		サービス担当者会議での情報提供の方法(ロールプレイ)
15		

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護総合演習Ⅰ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

久保英樹・篠原淑子・松本末信・
橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

介護実習Ⅰaの実習を充実したものにするため、記録の書き方、研究の準備、介護技術の確認等を学ぶ。また、身だしなみ等、実習に必要な姿勢も同時に学ぶ。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
・介護福祉士養成校における介護実習について概説する。
・他科目での学びの統合化について概説する。
・多職種協働の意味と重要性の意識化について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①各領域で学んだ知識と技術の統合ができ介護実践につなげることができる。
- ②介護実習について理解できる。
- ③実習中に使用する記録類を記帳できる。
- ④実習先の事業や支援内容を理解できる。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備をしておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1		介護実習の意義と目的
2	知識と技術の統合～介護実習で何を学ぶのか	介護実習の種類
3		実習前後の学びと活かし方
4	知識と技術の統合～介護実習とは	介護福祉士資格取得までの道筋
5	知識と技術の統合～介護実習 I aについて	通所介護・通所リハビリテーションの機能と役割を知る
6	知識と技術の統合～介護実習を知る	2年生の介護実習体験者の体験談を聴講する
7	介護実習 I a へ向けて実習準備	実習先の説明
8		施設概要の書き方・作成
9		実習目標の説明
10		実習目標の作成
11		自己紹介書、個人情報に関する誓約書記入
12		実習日誌の書き方について①
13		実習日誌の書き方について②
14		
15		記録物等の準備、実習説明会の開催、及び個人面接

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護総合演習Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

久保英樹・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

介護実習Ⅰbの実習を充実したものにするため、実習Ⅰaをまとめ、発表し、介護実習Ⅰbの自己課題や研究テーマを明確にし、介護保険施設に向けた準備を行う。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
・介護福祉士養成校における介護実習について概説する。
・他科目での学びの統合化について概説する。
・多職種協働の意味と重要性の意識化について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記帳できる。
- ②自己が行う研究に関する準備ができる。
- ③実習先の事業や支援内容を理解できる。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備をしておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1		お礼状作成、提出物の確認
2	知識と技術の統合～介護実習 I aの振り返り	介護実習 I a報告書の作成①
3		介護実習 I a報告書の作成②
4		介護実習 I a報告書の作成③
5	介護実践の科学的探究～介護研究を知る	2年生の介護研究発表会の聴講
6	知識と技術の統合～介護実習報告会 I a	自己の実習を報告する
7		
8	知識と技術の統合～介護実習 I b実習準備	介護実習 I bについて
9		実習先の説明
10		施設概要の書き方・作成
11		実習目標の説明
12		実習目標の作成
13		自己紹介書、個人情報に関する誓約書記入
14		
15		記録物等の準備、実習説明会の開催、及び個人面接

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ・ 実習の	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、生活支援技術、社会の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護総合演習Ⅲ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

久保英樹・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

介護実習Ⅰbのまとめを行うとともに、介護実習Ⅰcと介護実習Ⅱへ向けて事例発表の方法、自己課題を明確にする。また、自分の将来を考えた職業の選択も考える。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
(授業の目的、ねらい)
・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記載できる。
- ②実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ③実習先の事業や支援内容を理解できる。
- ④家族・職員とのコミュニケーションの在り方を理解できる。

事前事後学習

随時指示する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1	知識と技術の統合～介護実習 I bの振り返り	お礼状の作成・提出物の確認、報告書のまとめ
2	知識と技術の統合～介護実習 I b発表会	介護実習 I bで学んだことを発表する
3	知識と技術の統合～介護実習 I c実習準備	介護実習 I cについて(実習先の説明、概要を知る)
4		実習目標の作成
5		施設介護計画・アセスメント・個別援助計画の記入方法を学ぶ
6	知識と技術の統合～介護実習 I cの振り返り	お礼状の作成・提出物の確認
7		報告書のまとめ①
8		報告書のまとめ②
9	知識と技術の統合～介護実習 II 実習準備	介護実習 II について
10		実習先の説明、実習先の概要を知る、実習目標の説明
11		実習目標の作成
12		個人紹介書・個人情報に関する誓約書
13		個人紹介書・個人情報に関する誓約書
14		施設介護計画・アセスメント・個別援助計画の記入方法を学ぶ①
15		施設介護計画・アセスメント・個別援助計画の記入方法を学ぶ②

成績評価基準及び方法

学習態度及び実技テスト(80%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」 中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護総合演習Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

久保英樹・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とし、介護実習Ⅱのまとめ・発表を行い、事例発表の方法、2年間の介護実習を統括しまとめる。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
(授業の目的、ねらい)
・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記載できる。
- ②自己が行う研究に関する準備ができる。(希望者のみ)
- ③実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ④実習先の事業や支援内容を理解できる。
- ⑤介護福祉士としての求められる資質を身につける。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備をしておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回		
1		お礼状の作成と提出物の確認
2	知識と技術の統合～介護実習Ⅱのまとめ	報告書の作成①
3		報告書の作成②
4		報告書の作成③
5	知識と技術の統合～介護実習Ⅱの発表	介護実習Ⅱにて学んだことを発表する
6		
7	知識と技術の統合～介護の日の活動	活動を通じて自己の進路を模索する
8	介護実践の科学的探究～2年間の実習の振り返り	研究の意義と目的
9		研究方法の理解
10		
11		倫理的配慮
12		研究内容の作成
13		
14		
15		研究内容の発表

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護実習 I a

《2単位(実習)／経営福祉学科1年前期集中・介護必修》

担当者

久保英樹・篠原淑子・松本末信・
橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、松本、橋
本 病院に勤務:篠原

授業の概要

本実習では、訪問介護事業所と通所介護事業所で計12日間の実習を実施するものとする。
(授業の目的、ねらい)
・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得することを目的とする。
・本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ①本学の書式を活用し、受け持ち利用者のアセスメントの方法が理解できる。
- ②介護技術の確認を行い、様々な技術を身につける。
- ③多職種協働の実践や関係機関との連携を理解する。
- ④介護福祉士の役割について理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

<p>介護保険下のもと展開される在宅サービスの中での実習を行う。</p>	<p>◆期日 1年次:8月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず)</p>
	<p>◆実習先 ①訪問介護(3日間) ②通所介護(11日間)</p>
	<p>◆目標 ①本学の書式を活用し、受け持ち利用者のアセスメントの方法が理解できる。 ②介護技術の確認を行い、様々な技術を身につける。 ③多職種協働の実践や関係機関との連携を理解する。 ④介護福祉士の役割について理解する。</p>

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程、介護総合演習など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護実習 I b

《2単位(実習)／経営福祉学科1年後期集中・介護必修》

担当者

久保英樹・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

本実習では、特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設のうち、いずれか1つの施設で合計12日間の実習を行うものとする。
(授業の目的、ねらい)
・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得することを目的とする。
・本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ①受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画、実施といった介護過程の実践的展開ができる。
- ②関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
- ③医療職と介護職の役割の違いについて理解する。
- ④在宅復帰に向けた支援を理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

介護過程の実践的展開と介護技術の実践を軸とした介護実習をおこなう。	◆期日 1年次:2月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず)
	◆実習先 特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設
	◆目標【第1週】 ①施設のスケジュールを把握すると共に、日常生活上の介護技術を習得する。 ②実習指導者の指導を受け、受け持ち者のアセスメント、計画の作成を行う。
	◆目標【第2週】 ③介護計画に基づく実施を展開する。 ④関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。 ⑤医療職と介護職の役割の違いについて理解する。 ⑥在宅復帰に向けた支援を理解する。

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、生活支援技術、社会の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護実習 I c

《2単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中・介護必修》

担当者

久保英樹・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

老人福祉法に基づく施設や事業所もしくは障害者総合支援法に基づく施設や事業所のうちいずれかの施設で合計12日間の実習を行うものとする。
(授業の目的、ねらい)
・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得することを目的とする。
・本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養うことを目的とする。

到達目標

- ① 介護実習 I a、I bの体験を踏まえて、介護過程の実践的展開ができる(アセスメント・介護計画の作成、実施、評価)。
- ② さまざまな利用者の生活像、障害像について理解できる。
- ③ 障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。
- ④ 利用者の個別性を尊重した自立支援の在り方を理解できる。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

<p>介護過程の実践的展開と介護技術の実践を軸とした介護実習をおこなう。</p>	<p>◆期日 2年次:6月～7月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず)</p>
	<p>◆実習先 老人福祉法に基づく施設や事業所もしくは障害者総合支援法に基づく施設や事業所</p>
	<p>◆目標【第1週】 ① 介護実習 I a、I bの体験を踏まえて、介護過程の実践的展開ができる(アセスメント・介護計画の作成)。 ② さまざまな利用者の生活像、障害像について理解できる。 ③受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画を作成する。</p>
	<p>◆目標【第2週】 ① 障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。 ② 利用者の個別性を尊重した自立支援の在り方を理解できる。 ③受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画に基づく実施、評価といった介護過程の展開を行う。</p>

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版・実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護実習Ⅱ

《4単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中・介護必修》

担当者

久保英樹・篠原淑子・松本末信・橋本晃

実務経験

施設に勤務:久保、松本、橋本
病院に勤務:篠原

授業の概要

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。実習は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設で23日間行う。

(授業の目的、ねらい)

・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養い、自立支援の観点から介護実践ができる能力を学ぶ。また、ご利用者やご家族等に対する精神的支援や援助のために実践的なコミュニケーション能力を身につけ、多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程の展開できる能力を養い、ご利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を習得する。

到達目標

- ①受け持ち担当者に対して、アセスメントを行い、短期入所のイメージで個別介護計画を作成、モニタリングを行い、計画の修正を行うといった、一連の介護過程の実践的展開をする。
- ②関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
- ③医療と介護の区別や違いを理解する。
- ④地域における生活支援の実践を理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	○
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

高齢者施設の介護現場で実習を行う	◆期日 2年次:9月～10月(23日間) (土日・祭日・中間指導含まず)
	◆実習先 特別養護老人ホームもしくは介護老人保健施設
	◆目標【第1週】 ①施設の概要、機能、役割、1日のスケジュール等を理解する。 ②実習指導者の指導を受け、受け持ち担当者のアセスメントを行う。
	◆目標【第2週～第5週】 ①利用者に提供される日常生活上の介護技術を習得する。 ②日常生活上の不自由を有する人への介護・援助方法を習得する。 ③受け持ち担当者の個別援助計画を立案、実施し、モニタリングの結果、必要であれば計画の見直しを行う。 ④関係職種との役割と連携方法を習得する。 ⑤地域における生活支援の実践や施設の役割を学び、家族への支援、地域ケアの展開方法を学ぶ。

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

発達と老化の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

篠原 淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・人間の成長と発達の基礎的理解について概説する。
・老年期の基礎的理解について概説する。
(授業の目的、ねらい)人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

- ①人間の成長と発達の基礎について理解できる。
- ②老年期の発達と成熟について説明できる。
- ③老化に伴うこころとからだの変化と日常生活について説明できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	人間の成長と発達の基礎的理解～成長・発達の考え方
2	人間の成長と発達の基礎的理解～成長・発達の原則・法則
3	人間の成長と発達の基礎的理解～成長・発達に影響する要因
4	人間の成長と発達の基礎的理解～発達理論
5	人間の成長と発達の基礎的理解～発達段階と発達課題
6	人間の成長と発達の基礎的理解～身体的機能の成長と発達
7	人間の成長と発達の基礎的理解～心理的機能の発達
8	人間の成長と発達の基礎的理解～社会的機能の発達
9	人間の成長と発達の基礎的理解～発達段階別にみた特徴的な疾病や障害
10	老年期の基礎的理解～老年期の定義
11	老年期の基礎的理解～老化とは
12	老年期の基礎的理解～老年期の発達課題
13	老年期の基礎的理解～老年期をめぐる今日的課題①
14	老年期の基礎的理解～老年期をめぐる今日的課題②
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第12巻 発達と老化の理解」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

発達と老化の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

篠原 淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・老化に伴うこころとからだの変化と生活について概説する。
 ・高齢者と健康について概説する。
 (授業の目的、ねらい)人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

①老化に伴うこころとからだの変化と生活について理解できる。
 ②高齢者と健康について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所テキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	老化に伴うこころとからだの変化と生活～老化にともなう身体的な変化と生活への影響①
2	老化に伴うこころとからだの変化と生活～老化にともなう身体的な変化と生活への影響②
3	老化に伴うこころとからだの変化と生活～老化にともなう心理的な変化と生活への影響①
4	老化に伴うこころとからだの変化と生活～老化にともなう心理的な変化と生活への影響②
5	老化に伴うこころとからだの変化と生活～老化にともなう社会的な変化と生活への影響①
6	老化に伴うこころとからだの変化と生活～老化にともなう社会的な変化と生活への影響②
7	高齢者と健康～健康長寿に向けての健康
8	高齢者と健康～高齢者の症状・疾患の特徴①
9	高齢者と健康～高齢者の症状・疾患の特徴②
10	高齢者と健康～高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①(骨格系・筋系、脳神経系、皮膚・感覚器系、循環器系)
11	高齢者と健康～高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②(呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系、内分泌・代謝系)
12	高齢者と健康～高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③(菌・口腔疾患、悪性新生物、感染症、精神疾患他)
13	保健医療職との連携①
14	保健医療職との連携②
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第12巻 発達と老化の理解」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

認知症の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・認知症を取り巻く状況について概説する。
・医学的・心理的側面から見た認知症の基礎について概説する。
(授業の目的、ねらい) 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

- ①認知症を取り巻く状況について理解できる。
- ②医学的・心理的側面から見た認知症の基礎について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	○
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義

演習

実験

実習

実技

○

試験実施の有無

実施する

実施しない

○

授業計画(項目・内容)

回	
1	認知症を取り巻く状況～認知症ケアの歴史と理念
2	認知症を取り巻く状況～認知症高齢者の現状と今後
3	認知症を取り巻く状況～認知症に関する行政の方針と施策
4	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症とは何か
5	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～脳のしくみ
6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～中核症状の理解
7	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～生活障害の理解
8	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～BPSDの理解
9	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の診断と重症度
10	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の原因疾患と症状・生活障害①
11	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の原因疾患と症状・生活障害②
12	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の治療薬
13	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の予防
14	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の人の心理
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第13巻 認知症の理解」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

認知症の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

篠原 淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて概説する。
 ・認知症の方をサポートする為の連携と協働について概説する。
 ・認知症の方の家族の支援について概説する。
 (授業の目的、ねらい) 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

到達目標

①認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解できる。
 ②認知症の方の生活をサポートする為の連携と協働について理解できる。
 ③認知症の方の家族への支援について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	○
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	
1	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症当事者からみえるもの
2	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症ケアの実際
3	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人とのコミュニケーション
5	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人へのケア①
6	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人へのケア②
7	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人へのさまざまなアプローチ①
8	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人へのさまざまなアプローチ②
9	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人の終末期医療と介護
10	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～環境づくり
11	連携と協働～認知症の人の地域生活支援
12	連携と協働～多職種連携と協働
13	家族への支援～介護者支援①
14	家族への支援～介護者支援②
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第13巻 認知症の理解」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

障がい理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・障害の基礎的理解について概説する。
 ・障害の医学的・心理的側面の基礎的知識について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

①障害の基礎について理解できる。
 ②障害の医学的・心理的側面の基礎的知識を習得できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	○
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	障害の基礎的理解～障害の概念
2	障害の基礎的理解～、障害者福祉の基本理念
3	障害の基礎的理解～障害者福祉に関する制度
4	障害の基礎的理解～障害者福祉制度と介護保険制度①
5	障害の基礎的理解～障害者福祉制度と介護保険制度②
6	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～障害のある人の心理
7	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～肢体不自由(運動機能障害)
8	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～視覚障害
9	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～聴覚・言語障害
10	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～重複障害
11	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～内部障害
12	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～重症心身障害
13	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～知的障害
14	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～精神障害
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

障がい理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・障害の医学・心理的側面の基礎的知識について概説する。
 ・連携と協働について概説する。
 ・家族への支援について概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

- ①障害の医学的・心理的側面の基礎的知識を習得できる。
- ②障害のある方の生活をサポートする為の連携と協働について理解できる。
- ③障害のある方の家族への支援について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	○
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～高次脳機能障害
2	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～発達障害
3	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～難病
4	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害に伴う機能の変化と生活への影響の基本的理解
5	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～生活と障害、生活上の課題と支援のあり方
6	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害を取り巻く環境
7	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害のある人への手帳
8	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害がある人の自立支援
9	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～QOLを高める支援のための理解
10	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害の特性に応じた支援内容
11	連携と協働～地域のサポート体制
12	連携と協働～チームアプローチ
13	家族への支援～家族への支援とは
14	家族への支援～家族の介護力の評価と介護負担の軽減
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

からだのしくみ I

《4単位(講義)／経営福祉学科1年通年・介護必修》

担当者

篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・こころのしくみについて概説する。
 ・からだのしくみについて概説する。
 ・移動、身じたく、食事に関連したところとからだのしくみについて概説する。
 (授業の目的、ねらい)
 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解することを目的とする。

到達目標

- ①こころのしくみについて理解できる。
- ②からだのしくみについて理解できる。
- ③移動に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ④身じたくに関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ⑤食事に関連したところとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回		回	
1	こころのしくみの理解～「健康」とは何か	1 6	移動に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が移動に及ぼす影響
2	こころのしくみの理解～人間の欲求の基本的理解	1 7	移動に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応
3	こころのしくみの理解～自己概念と尊厳	1 8	移動に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応(演習)
4	こころのしくみの理解～「こころ」とは何か	1 9	身じたくに関連したところとからだのしくみ～身じたくのしくみ①
5	からだのしくみの理解～からだのつくりの理解	2 0	身じたくに関連したところとからだのしくみ～身じたくのしくみ②
6	からだのしくみの理解～細胞・組織・器官・器官系	2 1	身じたくに関連したところとからだのしくみ～身じたくのしくみ(演習)
7	からだのしくみの理解～人体の構造と機能①	2 2	身じたくに関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が身支度に及ぼす影響
8	からだのしくみの理解～人体の構造と機能②	2 3	身じたくに関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応
9	からだのしくみの理解～生命を維持するしくみ	2 4	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～食事のしくみ①
1 0	からだのしくみの理解～自律神経系	2 5	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～食事のしくみ②
1 1	からだのしくみの理解～生命を維持する徴候の観察①	2 6	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～食事のしくみ(演習)
1 2	からだのしくみの理解～生命を維持する徴候の観察②	2 7	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が食事に及ぼす影響①
1 3	移動に関連したところとからだのしくみ～移動のしくみ①	2 8	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が食事に及ぼす影響②
1 4	移動に関連したところとからだのしくみ～移動のしくみ②	2 9	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応①
1 5	移動に関連したところとからだのしくみ～移動のしくみ(演習)	3 0	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応②

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第11巻 こころとからだのしくみ」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
生活支援技術、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

からだのしくみⅡ

《4単位(講義)／経営福祉学科2年通年・介護必修》

担当者

篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

- ・入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみについて概説する。
- ・排泄に関連したところとからだのしくみについて概説する。
- ・休息・睡眠に関連したところとからだのしくみについて概説する。
- ・人生の最終段階にある人のところとからだのしくみについて概説する。

(目的、ねらい)

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解することを目的とする。

到達目標

- ①入浴に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ②排泄に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ③休息・睡眠に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ④人生の最終段階にある人のところとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回		回	
1	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～入浴・清潔保持のしくみ①	1 6	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響
2	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～入浴・清潔保持のしくみ②	1 7	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響(演習)
3	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～入浴・清潔保持のしくみ(演習)	1 8	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応(演習)
4	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響①	1 9	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～「死」をとらえ方
5	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響②	2 0	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～「死」に対するところの理解(受容する段階)
6	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応①	2 1	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～「死」に対するところの理解(家族の「死」を受容する段階)
7	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応②	2 2	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～終末期から危篤時の特徴(終末期の特徴、危篤時の変化)
8	排泄に関連したところとからだのしくみ～排泄のしくみ	2 3	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～終末期から危篤時の特徴(死の三徴候等)
9	排泄に関連したところとからだのしくみ～排泄のしくみ(演習)	2 4	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～終末期から危篤時の特徴(死後の身体変化)
10	排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①	2 5	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～終末期から危篤時の医療の実際
11	排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②	2 6	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～終末期から危篤時、臨終期の観察ポイント
12	排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(演習)	2 7	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～死後の連絡(死亡診断書、死後の処置)
13	排泄に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応①	2 8	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～介護の役割と医療との連携①
14	排泄に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応②	2 9	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～介護の役割と医療との連携②
15	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ～休息・睡眠のしくみ	3 0	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第11巻 こころとからだのしくみ」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
生活支援技術、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

医療的ケア概論 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

中村 京子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・医療的ケアを行う際に必要な、個人の尊厳・保健医療等の制度・喀痰吸引・清潔操作・感染予防・チーム医療について学ぶ

到達目標

・医療における倫理的配慮の必要性や吸引と経管栄養を行う際に必要な基礎知識・技術(バイタルサイン・清潔操作)を理解する。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・住宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義

演習

実験

実習

実技

○

試験実施の有無

実施する

実施しない

○

授業計画(項目・内容)

回	
1	人間と社会(個人の尊厳・医と介の倫理・個人情報守秘義務)
2	人間と社会(医療的ケアを受ける利用者への対応・介護・看護の立場・生活支援)
3	保健医療制度とチーム医療(保健医療に関する諸制度・医行為に関する法律)
4	保健医療制度とチーム医療(喀痰吸引と経管栄養についての看護の立場・生活支援)
5	安全な療養生活(喀痰吸引や経管栄養の安全な実施。リスクマネジメントについて)
6	安全な療養生活(ヒヤリハットとアクシデント)
7	安全な療養生活(救急蘇生法)
8	清潔保持と感染予防(標準予防策・手洗い・うがい、手指消毒液等)
9	清潔保持と感染予防(職員の感染予防対策・生活環境)
10	清潔保持と感染予防(医療廃棄物の処理)
11	健康状態の把握(平常時の健康状態の把握、健康観察法と平常時の違いの把握)
12	健康状態の把握(バイタルサインとその見方)
13	健康状態の把握(バイタルサインの測定方法)
14	健康状態の把握(急変時の把握とその対応・準備)
15	医療的ケアと介護福祉士の責任まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格、医療的ケア 基本研修修了

科目名

医療的ケア概論Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

中村京子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

- ① 喀痰吸引のしくみについて説明できる。
- ② 安全で適切な喀痰吸引の手順を説明できる。
- ③ 喀痰吸引を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	呼吸のしくみと働き・喀痰吸引
2	喀痰吸引とは
3	喀痰吸引を安全に実施できるための留意点
4	喀痰吸引で用いる器具・器材の仕組み
5	喀痰吸引の必要物品と消毒法
6	利用者の状態観察と喀痰吸引前の利用者への説明
7	喀痰吸引の実施と留意点
8	喀痰吸引の実施と留意点・口腔内
9	喀痰吸引の実施と留意点・鼻腔内
10	喀痰吸引の実施と留意点・気管カニューレ
11	人工呼吸器と吸引
12	こどもの吸引
13	呼吸器系の感染と予防
14	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認
15	急変・事故発生時の対応と事前対策

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」中央法規出版	必要に応じて紹介します
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ	介護福祉士国家試験受験資格 医療的ケア 基本研修修了

科目名

医療的ケア概論Ⅲ

《1単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

中村京子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

- ① 経管栄養のしくみについて説明できる。
- ② 安全で適切な経管栄養の手順を説明できる。
- ③ 経管栄養を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	消化器系のしくみと働きの理解 消化・吸収と消化器の症状
2	経管栄養法の理解 注入する内容に関する知識
3	経管栄養上の留意点
4	こどもの経管栄養について
5	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応(説明と同意)
6	感染予防 急変・事故発生時の対応と事前対策
7	高齢者及び障害児・者の経管栄養について
8	経管栄養で用いる器具・機材の理解 経管栄養の技術と留意点①
9	経管栄養で用いる器具・機材の理解 経管栄養の技術と留意点②
10	医療職への連絡・方法

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」 中央法規出版	必要に応じて紹介します
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ	介護福祉士国家試験受験資格 医療的ケア 基本研修修了

科目名

医療的ケア演習

《1単位(演習)／経営福祉学科2年集中・介護必修》

担当者

中村京子・篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

経管栄養及び喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養及び喀痰吸引、急変状態への対応など、経管栄養及び喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

1. 経管栄養や痰の吸引について説明できる。
2. 安全で適切な経管栄養や痰の吸引の手順を説明できる。
3. 経管栄養やたん吸引を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。
4. 緊急時の対応について理解できる。

事前事後学習

配布されているプリントを読み、手順を覚えて演習の準備をする。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業計画(項目・内容)

回	前期 (集中)
1	経管栄養や痰吸引の手順を復習し、演習を行う。
2	経管栄養や痰の吸引演習
3	経管栄養や痰の吸引演習
4	経管栄養や痰の吸引演習
5	経管栄養や痰の吸引演習
6	経管栄養や痰の吸引演習
7	経管栄養や痰の吸引演習
8	経管栄養や痰の吸引演習
9	経管栄養や痰の吸引演習
10	経管栄養や痰の吸引演習
11	経管栄養や痰の吸引演習
12	経管栄養や痰の吸引演習
13	経管栄養や痰の吸引演習
14	救急蘇生法演習
15	まとめ

成績評価基準及び方法

経管栄養法(経鼻経管栄養、胃ろう各5回)、吸引(口腔、鼻腔、気管切開各5回)最終回に実技試験。および救急蘇生法1回実施

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」中央法規出版	必要に応じて紹介します
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ	介護福祉士国家試験受験資格 医療的ケア 基本研修修了